

今年の秋もボランティアを募集します!



青年海外協力隊、シニア海外ボランティアを募集します(日系社会青年ボランティア/日系社会シニアボランティアも同時募集)。募集説明会の日程は右表の通りです。詳しい内容はJICA北陸ホームページをご覧ください。

JICA北陸ホームページ 海外ボランティア事業 検索



JICAボランティア 平成22年度秋募集「体験談&説明会」日程

	富山県	石川県	福井県
青年海外協力隊 (20~39歳対象)	10月3日(日) 14:00~16:00 サンシップとやま 研修室701	9月26日(日) 14:00~16:00 近江町交流プラザ 4階まなび広場 集会室	10月2日(土) 14:00~16:00 福井県立図書館 文書館 研修室
	10月14日(木) 18:30~20:30 CIC 3階 富山市民国際交流協会 会議室1	10月16日(土) 14:00~16:00 石川県立生涯学習センター 35号室	10月17日(日) 14:00~16:00 福井県国際交流会館 第3会議室
	10月23日(土) 14:00~16:00 サンシップとやま 研修室501	10月19日(火) 18:30~20:30 金沢勤労者プラザ 101 研修室	10月26日(火) 18:30~20:30 福井県国際交流会館 第3会議室
シニア海外 ボランティア (40~60歳対象)	10月3日(日) 10:30~12:30 サンシップとやま 研修室701	9月26日(日) 10:30~12:30 近江町交流プラザ 4階まなび広場 集会室	10月2日(土) 10:30~12:30 福井県立図書館 文書館 研修室
	10月23日(土) 10:30~12:30 サンシップとやま 研修室501	10月16日(土) 10:30~12:30 石川県立生涯学習センター 35号室	

●申し込み不要、参加無料、入退場自由。興味のある方ならどなたでも参加できます。お気軽にお越し下さい!



JICA ボランティア 最前線

北陸出身ボランティア3名の今をお知らせします

見知らぬ海外で私たちの想像がつかないドラマが毎日繰り広げられています。ボランティアの活動は通常2年間。熱い気持ちと共に現地へ飛び込んだ彼らも、時には心細くなることもあります。そして、喜びに涙することもあります。異なった言語や文化を持つ人びとの関係を構築していき、新たな未来を切り開いてきます。そんな彼らの「ボランティア・ワールド」を覗いてみませんか?



高橋 太郎さん

- 派遣期間: 2009年6月~2011年6月
- 日系社会青年ボランティア
- 派遣国: ドミニカ共和国
- 活動内容: 青少年活動
- 勤務先: ドミニカ日系人協会
- 出身: 富山県



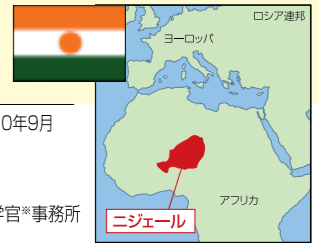
東野 奈津恵さん

- 派遣期間: 2009年3月~2011年3月
- 青年海外協力隊
- 派遣国: エルサルバドル共和国
- 活動内容: 経済・市場調査
- 勤務先: エルサルバドル副大統領府地方機関
ブランドリフィニオ
- 出身: 石川県



林 宏征さん

- 派遣期間: 2008年9月~2010年9月
- 青年海外協力隊
- 派遣国: ニジェール共和国
- 活動内容: 村落開発普及員
- 勤務先: アギエ市初等教育視学官*事務所
- 出身: 福井県



— 知られざる移民の国、知られざる小さな日本 — ドミニカ共和国 —

出身地の高岡市、仕事で赴任していた岐阜県大垣市には多くの日系人が暮らしています。仕事や生活を通して中南米の日系社会を知り、もっと理解したいと思い、応募しました。日系社会といえば、ブラジルやハワイを思う人が多いかもしれませんが、活動拠点の中南米・ドミニカ共和国にも現在約1000万人の人口に対し約900人の日系人が暮らしています。私は、1956年~1960年頃に見知らぬ土地に移住し、厳しい暮らしを経験することになった日系社会の人びとを支援する活動をしています。



ハラバコア移住地の皆さん

ドミニカ日系人協会で、農業移住者1世の先輩方から、2世3世に日本語教育や日本文化を継承する盆踊り、運動会、慰霊祭、ソフトボール大会等恒例行事の準備・運営、広報活動の支援を担当。2カ国語で案内状を作成するなど、作業の大半がコンピュータ操作を必要とするため、パソコン教室を開き、事務の基礎的な知識を教えています。事務効率を上げるためには青年の協力体制を築くなどして時間がかかりそうですが、これからも自分たちのルーツを忘れず、若い世代への日本文化継承を続けてほしいと願っています。



フルーツ屋さん。マンゴー、JUVIヤ、バナナ、アボカド等、どれもおいしい。現地で一生分のマンゴーを食べるつもりです。

配属先でお世話になっている1世のみなさんのお話を聞き、自分が今まで体験したことのない価値観や考え方を知り、貴重な経験をしました。日系人社会を通して、開発途上国の姿を知り、また、自分の故郷のことを見つめ直すことができました。

JICAボランティアの中には、必ず何らかの貢献をし、形に残る実績を、と考える人が多いかもしれませんが、でも、焦らず、見栄をはらず、地道に自分らしく奉仕活動することが、現地の人々に何らかのメッセージを伝えられる方法だと考えています。今後も日本にいる友人・知人・先輩たちとの信頼関係、今まで培ってきた「人と人の繋がり」を大切に、活動に取り組みます。



日本製の自動車埋め尽くされるドミニカ共和国の道 大運動会で、玉入れの様子 浴衣を着て盆踊りに集まる青年

— エルサルバドルの恵み — 奇跡のハチミツ、市場拡大へ

テレビで見たボランティアのコマーシャルがきっかけとなり青年海外協力隊に応募。現地から、針なしミツバチから採れるハチミツの販売促進依頼があり、アパレルメーカーで、地域統括課長として甲信越・北陸地域で取り組んだ市場拡大の経験を活かす機会ができました。



派遣先のチャラナゴ県ラバルマ市の町並み

当時はハチミツを道端で販売、生産者には流通や販売の知識がなく、他の商品のように流通ルートにのせることができずにいました。そこで、早速、営業活動を開始。首都や周辺都市の商店街やホテルで市場調査を行なった結果、ターゲットを富裕層に絞り、商品情報をまとめカタログを作成、試食の機会を設け、品質の良さをアピールしました。その他、定期的な会議を行い、パッケージや生産・売上管理の改善を促してきました。



東野さんの提案で改良されたパッケージ、その名も「奇跡のハチミツ」

その結果、営業活動がメディアにも取り上げられ、商品はあっという間に売れて、品切れに。利益が上がり、生産者のやる気も出ました。武正公一前外務副大臣がエルサルバドルを訪問した際に、ハチミツを試食。高い評価を得たことから、さらに需要は増加中です。これからは生産コストをさらに見直し、改善を図っていきます。商標登録や衛生基準許可等を獲得するため、共同組合の設立を計画中です。女性の活躍する機会が少ない現地で、女性グループを発足。ハチミツを利用した石鹸やシャンプー等の製造・販売を予定しています。

JICAボランティアの魅力は、国境を越えて、言語や文化の違う人びとと共同作業ができることです。最初は現地の状況に戸惑いもありましたし、言葉の壁も感じましたが、お互いに良い信頼関係ができたことにより、みんなが耳を傾けてくれて、共に行動したことが成果につながったように思います。これからも新しい出会いや発見に毎日がドキドキ・ワクワクの連続、多忙な日々が続きます。



巣の形態に特徴がある針なしミツバチ ラジオのインタビューに答える養蜂家と東野さん 女性グループのメンバーと

— 村民の心に潤いを — 身近な喜びが幸せを呼ぶ

西アフリカ数カ国を旅行した時、実状をさらに確かめたいと感じ、その機会を探したところ、JICAボランティアを発見。地域住民の福祉向上や生活改善を目的とした村落開発普及活動があり、応募を決定しました。



アギエ市視学官事務所にて同僚たちと

派遣先はアフリカ・ニジェール。生活改善と現金収入を目的とした調査をしています。そのため地域住民と緊密な関係を築き、彼らから直接問題点やニーズのヒヤリングを行っています。その中から、いくつかの問題解決のための活動を展開しています。

国民の半分が農民のニジェールは気温の高低差は激しく、降水量は少なく、厳しい環境下での農業を余儀なくされています。主な農産物はメイズ(とうもろこし)、アワ、ヒエ等で、これらは、水分が少なくても生産可能ですが、確実に収穫するためにも、一定期間耕作を休止し土地を肥やす「休耕地」システムを浸透させる活動をしています。



休耕地システムの試験的導入をしたときの播種の様子(ミレットとソルゴーというこちらの主食の種を蒔いた)

村落開発の現場で有効に活用されているのが「改良かまど」です。女性の寿命が短いアフリカでは、過酷な家事が大きな原因だと言われています。そこでこのかまどを導入し女性の家事の軽減を図りました。従来、電気やガスがない土地では石の上に鍋を置く、直火式のかまどが使われています。「改良かまど」の材料は土や家畜の糞にわらを加えたもので、入手が簡単です。現在は熱効率がよく、薪の消費も大幅に減り、森林保全にもなります。

このように、青年海外協力隊としてやりがいは、なんとと言っても現地で自ら活動ができることです。現地へ赴いて現状を見て行動できるのはJICAボランティアの醍醐味。現場にある事実と向き合っ活動が可能なのに、たとえ大きな効果がなかったとしてもやりがいを感ずります。国際協力が開発途上国の利益につながるよう、今後も努力を続けていけたらと思います。

※視学官とは? : 学校教育で進歩・向上を目的として専門的、技術的な指導・助言を行う職



水汲みの様子。写真の井戸は30メートル以上の深さがある。人力では困難なため、牛などの家畜にロープを引っ張らせて水を汲み上げている。現地アギエではこのような光景が一般的 村落部にて改良かまどのデモンストレーション 完成した改良かまど。左がデモンストレーションで作製したもの。右はデモンストレーションの後日、村の女性たちによって作製された